

る) やCCUS (「Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage」の略。分離・貯留したCO₂を利用しようというもの) 等の技術革新とエネルギー移行に向けての「多様な道筋 (various pathways)」のあり方について、わが国のエネルギー安全保障の観点を踏まえた問題点をお話いたしました。

外務大臣政務官を務めたこの一年間は、政治家として知識を増やし経験を積み、あらゆる意味で幅を広げていただいた、大変有意義な時間でありました。この蓄積をこれからわが国のために活かしていくには、次の選挙に勝利し、引き続き国会での活動ができる、確固たる立場を得なければなりません。

皆様の力強いご支援をお願い申し上げる次第です。



国政レポート 第15号

衆議院議員 高木けい 未来を創る! 新たな挑戦。

小選挙区支部長に選任されました!

令和5年7月19日、自民党本部において、自由民主党東京都第十二選挙区支部長に選任の通告をいただきました。区割り変更があり、以前の東京12区とは少し形が変わりましたが、北区を中心とする東京12区に自民党の衆議院候補を立てることができるようになるのは、平成12年以来、20数年ぶりとなります。この間、東京12区は自公連立政権により、東京で唯一自民党が公明党候補（元国土交通大臣・太田昭宏先生、元財務副大臣・岡本三成先生）を応援する選挙区되었습니다。私は、様々な事情の中で今回の決定が下されたことを重く受け止め、今後ともより一層の精進を重ね、今までと変わらず、地元と東京都、そして国家と国民のために全力で働くことを改めて決意いたしました。東京12区は、北区全域と板橋区北部（坂下一丁目27・29～41、坂下二・三丁目、東坂下二丁目、蓮根一～三丁目、相生町、高島平一～九丁目、新河岸一～三丁目、舟渡一～四丁目）がそのエリアです。

改めて東京12区の皆様に、私高木けいが、この地域の自民党選挙区支部長となりましたことをご報告申し上げるとともに、今後一層のご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

ところで、自民党的ルールとして、空白選挙区の支部長を決める際には、原則として公募により公平・公正な審査に基づき決定されることになっています。東京12区も例外ではなく、ルール通り公募選考となりました。私も一人の応募者として、論文など必要書類を提出し、面接審査などを経て今回の決定に至りました。

おかげさまで選挙区支部長に選任されました。それは単に小選挙区での戦いのスタートラインに立ったに過ぎません。全ては次の選挙で勝利するためのプロセスです。自民党として東京12区での勝利に向け全力で頑張りますので、皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



憲法改正に関し、岸田総理と意見交換

■自民党東京都第十二選挙区(北区全域及び板橋区北部)のわが党議員の皆様

【板橋区】

衆議院議員	板橋区議会議員
下村博文先生	川口まさとし先生
東京都議会議員	元山よしうき先生
松田やすまさ先生	内田けんいちろう先生

【北区】

北区議会議員	竹田ひろし先生	坂場まさたけ先生
戸枝大幸先生	永沼かつゆき先生	金田よしあき先生
渡辺かつひろ先生	石川さえだ先生	平田りさ先生
大沢たかし先生	松沢よしはる先生	仲田みすき先生

令和5年 第3回 時局講演会 開催のお知らせ

わが国を取り巻く内外の諸情勢が日増しに複雑になっている中、わが国の将来像をどのように描いていくのか、多くの国民の間に漫然とした不安が広がっているように感じます。東京都第十二選挙区支部長としての決意とともに、外務大臣政務官としての一年を振り返り、これからわが国の進むべきビジョンをお話しする会にしたいと思います。皆様のご参加をお待ちいたしております。

【日時】令和5年9月26日(火)
18:00より(17:30開場)

【会場】北とぴあ(さくらホール)

【講師】参議院自民党幹事長 元経済産業大臣
世耕弘成先生

【会費】無料

【備考】準備の都合がありますので、QRコードから、又は高木けい事務所まで直接お申し込みください。



随时、情報を発信中!
高木けいSNSアカウントを
ぜひチェックしてください!

<https://twitter.com/takagikei310>
 <https://www.facebook.com/Takagi.Rep/>
 <https://takagi-kei.com/>



地元王子本町事務所

〒114-0022
北区王子本町1-14-9-202
ウェーブエスコルタ
電話: 5948-6790
FAX: 5948-6791

議員会館事務所

〒100-8982
千代田区永田町2-1-2
衆議院第2議員会館310号室
電話: 3508-7601
FAX: 3508-3981



自民党員を募集しています!

入党のお申し込みは高木けい事務所までご連絡ください。

自民党は国民政党として広く国民の支持をいただくために、常時党員を募集しています。

一般党員
年額 4,000 円

家族党員
年額 2,000 円

■東カリブ漁業大臣会合(於セント・ビンセント)に出席

漁業支援、ALPS処理水の海洋放出を説明

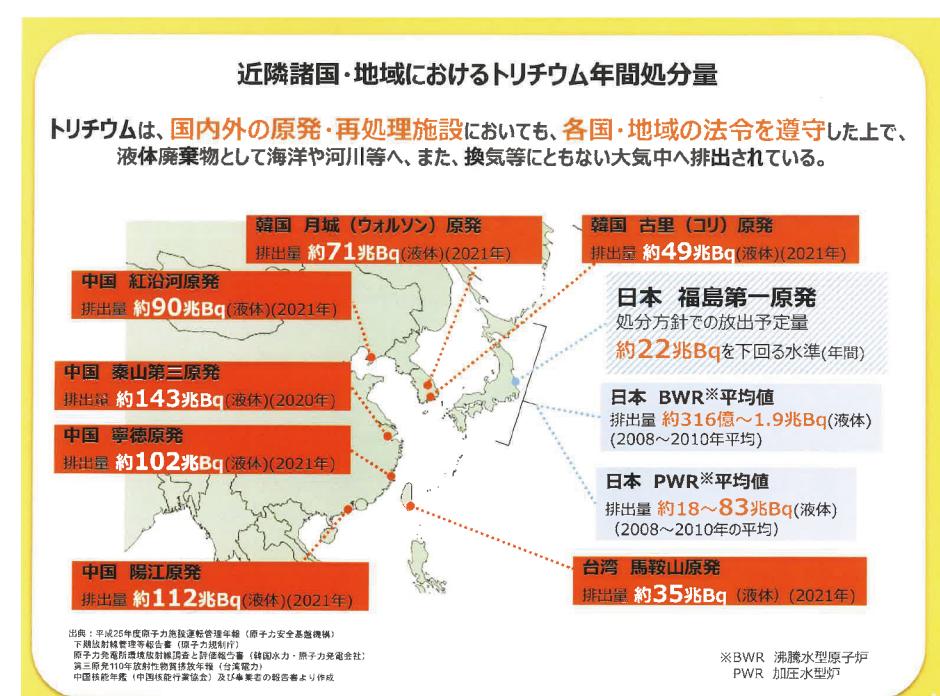
令和5年7月11～16日まで、米国経由カリブ海の島国セント・ビンセントへ出張し、東カリブ漁業大臣会合に出席しました。

この地域はカリブ海諸国を含む14カ国一地域で「カリコム」という共同体をつくり、いずれも漁業や観光業等が主要産業です。歴史的に捕鯨や漁業を通じてわが国との関係は深く、東カリブ漁業会議もわが国の共催で行われています。したがって、国際場裡では常にわが国の立場の良き理解者であり、大切な友好国の集まりです。

今回、私がこの会議に参加することになったのは、まずわが国外務大臣政務官がセント・ビンセントに初めて訪問することに意義があり、この地域の捕鯨や漁業問題へ継続的支援を打ち出すこと、さらにALPS処理水(ALPS treated water)の海洋放出に関して正しい情報発信を行い、中国の科学的根拠に基づかないナラティブに毅然と対抗するためでありました。

そのため、私は全体会議の冒頭スピーチ及び各国とのバイ会談の席上、2つの資料（資料1、資料2）を配布しIAEAの見解を引用しつつ、科学的根拠に基づくALPS処理水の安全性に理解を求めました。その結果、すべての国が「科学的根拠」に基づくわが国の説明に理解を示し、地道な外交活動の大切さを身をもって体験することになりました。

実はこの「科学的根拠」こそ、今回の会議のキーワードでした。ALPS処理水だけでなく、捕鯨や海洋資源の活用においても、科学的根拠の基づかないルールや規制が散見されるからです。海洋資源の適切な利用は、わが国はもとより、海と共に生きてきた国々にとって大切なテーマです。絶滅危惧種や個体数の減少が続いているものについて、科学的根拠のもとでのルールや規制は適切に行われるべきですが、その判断基準は疑いのない科学的根拠によるべきで、一方的な環境保護などではなく、ましてや「科学が風評に負けてはならない」と考えます。こうした議論をわが国がリードしたこと、今回の東カリブ漁業大臣会合の成果の一つとなりました。



資料1 近隣諸国よりも我が国の処理水の方が、低レベルであることは一目瞭然の資料

■G20エネルギー移行大臣会合(於インド・ゴア)に出席

エネルギーアクセス、エネルギー安全保障には多様な道筋がある

令和5年7月21日～24日まで、G20エネルギー移行大臣会合に、西村康稔経産大臣とともに出席しました。昨年、インドネシア・バリで行われた同会議が、今年はインドが議長国となり、同国・ゴアで開催されたものです。

モディ首相、シン電力大臣の基調演説から、エネルギー移行には、多様な道筋（various pathways）があり、世界中の人々にとって廉価で十分なエネルギーアクセスを確保することは、ベーシックヒューマニーズであるという、かねてからわが国が主張してきたことが、参加各国にかなり浸透してきたと思われる、明るい兆しを感じさせる会議になりました。

いま、世界のエネルギー移行に関して、そのベースはG7広島サミットでの成果文書です。「一つのゴールに向けての多様な道筋」、「排出削減対策が講じられていない新規の石炭火力発電所の建設終了に向けて取り組んでいく」という文言などは、非常に現実的かつ持続可能な方向に、少しずつ修正されつつ進んできたと考えます。特にこれらは、グローバル・サウスに向けた明確なメッセージになりました。

全体会議に参加しながら、合間にバイ会談とロビーでの懇談で11人の各国要人に会うなど、非常に密度の濃いインド訪問となりました。



20議長国インドのシン電力大臣とのバイ会談。
エネルギー移行は現実的であるべきという、基本的考え方は完全に一致。

■高木けい政経セミナー開催



現在の上司である林外務大臣から、
日本との仕事に高い評価をいただき激励されました

令和5年7月19日、国政報告を兼ねた政経セミナーを、都市センターホテルで開催しました。

清和政策研究会の塩谷・下村両会長代理、自民党本部から萩生田政調会長（都連会長）、林外務大臣、高市国務大臣はじめ、先輩、同僚の多くの国会議員に駆けつけていただきました。

当日の開催直前、党本部において自民党東京都第十二選挙区支部長の正式決定があり、私の支部長就任をセミナー席上で発表できる幸運に恵まれました。

セミナーの講演では、外務大臣政務官としての活動を振り返り、特にエネルギー安全保障、再生可能エネルギーの必要性と深刻な課題について取り上げました。

特にこれから議論になると思われる、化石燃料の利用の方法、CO₂排出削減対策の一環としてのCCS（「Carbon dioxide Capture and Storage」）の略。日本語では「二酸化炭素回収・貯留」技術と呼ばれ